

第3章

大村市観光の基本的な方向

本市観光の中・長期的の基本的な方向として、社会的背景と本市の地域特性を踏まえ位置づけします。

基本的方向① 本市の人口構成は将来の地域を担う若年層が高い。
⇒地域の若者定住化として**将来に繋ぐ次世代の観光交流**（市場）にシフトしていく。

基本的方向② 本市は広域交通網の拠点、とりわけ国際空港を有している。
⇒将来、人口減少、超高齢化による国内観光の縮小から、来るべき海外から観光誘致にシフトしていき戦略的にアジア市場の訪日教育旅行など、若年層を対象に**次世代の国際観光交流拠点**の形成を構築していく。

基本的方向③ 本市の広域交通網と自然や歴史自然資源の海・街・里山のコンパクトなまちを活かす。
⇒地域資源を活かしたデスティネーション（目的地）と**滞在化の機能**としてのソフト面の地域の歴史・文化や6次産業、製造業などのメニューの整備、ハード面のバイサイド、街なか、里山での複合型のカフェなど国際化にも対応する**多様な宿泊施設整備**を図っていく。

1 将来像

四季をとおして自然と歴史と人がふれあう観光交流都市「おおむら」
～次世代の国際交流のまちをめざして～

2 具体的な数値目標

豊かな自然や歴史・文化的資源、伝統ある祭りや行事などの観光資源を活かし、四季をとおして観光できるまちづくりを目指し、最終年度の平成37年（2025年）には、観光客数155万人を実現します。

観光統計年	観光客数	宿泊客数	観光消費額
平成32年	1,380,000	250,000	56億円
平成37年	1,550,000	280,000	66億円

3 基本方針

観光振興の将来像である「四季をとおして自然と歴史と人がふれあう観光交流都市『おおむら』」の実現のため、本市の観光交流都市づくり計画の基本方針を次のように示し、計画的に諸施策を推進します。

(1)具体的な観光都市づくりの施策

①魅力的な滞在型観光地づくり

豊かな自然や伝統的な文化遺産、大村ならではの食を活用し、魅力ある観光商品の開発を行い、地域経済の活性化を図ります。

また、観光の多様なニーズや年齢層に応じた体験プログラムやさるく開発など関係機関と連携による観光メニューを開発し、目的型機能と多様な宿泊施設による滞在型の観光地づくりを推進します。

②国際観光交流のまちづくり

長崎県には、中国からのクルーズ船入港や韓国や上海からの航空機が就航しており、多くの外国人観光客が訪れています。このような状況の中、日本文化の体験メニュー開発や通訳ガイドの育成など、訪日外国人の受け入れ体制の強化を図ります。

また、アジアからの中・高校・大学生をターゲットに訪日教育旅行の国際交流拠点づくりを推進します。

③観光基盤の整備による観光地づくり

既存の観光施設等の基盤整備と自然・文化に触れる二次交通の整備を図ります。また、外国人観光客の誘客に向け、4か国語表記（日本語、英語、中国語、韓国語）の案内板の設置を行います。

更には、観光客の市内観光周遊を促すため、大村公園や森園公園、放虎原殉教地などのキリシタン史跡に、公衆無線LANの整備と、動画による周遊観光のアプリ開発を行います。

④まちの景観の整備による観光地づくり

大村湾からの景観、街路樹や看板、^(注)ストリートファニチュア、街並み景観、里山の暮らしの風景や全景などの観光スポット、四季の花木の景観による観光資源としての観光づくりに努めます。

(注) 沿道の町並みと調和する椅子やテーブル、アート彫刻などの設置物

⑤官民協働による観光地づくり

市民・企業・観光関連団体が行政と協働して、観光まちづくりの学習や研究、観光情報の共有化、観光施策の立案・実施及び管理・評価を図ります。

また、市民参画によるイベントや体験プログラムなど、新たな観光商品の開発を行います。

⑥おもてなしを推進する観光地づくり

観光地への誘導を行うため、看板の整備を計画的に行うとともに、長崎県で推進している「おもてなし6カ条」を基本とし、観光関連団体、幼稚園、保育園、小・中学校、高校など市民一体となった「おもてなし」、特に、外国語取得や異文化研修による「おもてなし」を含めての推進と観光地としての市民の意識醸成を図ります。

⑦情報発信を強化した観光地づくり

地域の旬な情報やイベントなどを、インターネットやマスメディア、雑誌会社などを通じて情報発信を行います。

また、観光客のニーズに応じたパンフレットの制作、本市の魅力を感じるポスターの制作を行います。

更には、マスコットキャラクターを活用した観光PR行い、観光客の誘客を図ります。

(2)重点的な取り組み

①九州新幹線西九州ルート開業に向けた観光客の誘客

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）が、平成34年（2022年）春、開業される予定となっています。今後、新たな観光地となるような新大村駅（仮称）周辺の景観づくりが必要です。

また、新大村駅（仮称）を軸とした、周遊観光ができるような二次交通の整備促進に取り組みます。

②大村市歴史資料館（仮称）の観光活用について

平成30年度完成予定の県立図書館に合築型に開設される大村市歴史資料館（仮称）は、本市の歴史観光の重要な施設と位置づけ、PR、集客に努めます。

③道の駅「長崎街道鈴田峠」を活用した地域活性化

平成28年（2016年）に開業を予定している道の駅は、情報発信施設と合わせ、住民協働で取り組む新たな交流拠点を創出します。

また、長崎街道にちなんだ、様々なイベントを開催し、観光客の誘客を図ります。

更に、本市の特産品をインターネットで情報発信し、道の駅を活用した販路拡大に努めます。

④自然や歴史を活かした観光まちづくり

本市には、海や山などの豊かな自然や歴史的な観光資源、体験施設など市内全域に存在しています。

このような自然や歴史などの観光資源を活用し、観光客のニーズに応じた観光ルートの開発を行い、滞在型観光に繋がります。

また、歴史や大村湾などの自然を活かした、広域的な観光ルートの開発を図ります。



白島



長崎街道鈴田峠（歴史の道百選）



多良山系

観光交流都市づくり計画の施策体系

将来像

四季をとおして自然と歴史と人がふれあう観光交流都市「おおむら」
～次世代の国際交流のまちをめざして～

国際化、滞在化、市民協働による観光

具体的な観光都市づくりの施策	基本方針	基本施策	重点的な取り組み	基本方針	基本施策
	1 魅力的な滞在型観光地づくり	(1) 自然・歴史等の観光資源の魅力向上 (2) 滞在・交流型観光の充実 (3) 修学旅行・コンベンション誘致の強化		1 九州新幹線西九州ルート開業に向けた観光客の誘客	(1) 魅力的な景観づくりによる交流拠点 (2) 施設を活用した観光客の誘客 (3) 二次交通の整備
	2 国際交流のまちづくり	(1) 外国人観光客の誘客促進 (2) 訪日教育旅行へのシフト		2 大村市歴史資料館（仮称）の観光活用について	(1) 観光客の受入体制の拠点づくり (2) 大村市歴史資料館（仮称）を活かした観光客の誘客
	3 観光基盤の整備による観光地づくり	(1) 観光施設の整備 (2) 交通の利便性の向上 (3) 公衆無線LANの整備とアプリの開発		3 道の駅「長崎街道鈴田峠」を活用した地域活性化	(1) 住民協働・交流拠点の創出 (2) 観光情報発信機能の強化 (3) 長崎街道を活用した観光客の誘客
	4 まちの景観の整備による観光地づくり	(1) 美しい景観の整備と形成 (2) 景観を活かした観光客の誘客		4 自然や歴史を活かした観光まちづくり	(1) 地域別の観光資源 (2) 滞在型観光コースの開発
	5 官民協働による観光地づくり	(1) 新たな観光資源の発掘と商品開発 (2) 新たな食と土産物の開発 (3) 魅力あるイベントへの転換			
	6 おもてなしを推進する観光地づくり	(1) 観光ガイドの充実と人材育成 (2) おもてなしの充実と市民の意識醸成			
	7 情報発信を強化した観光地づくり	(1) 関係団体と連携した情報発信 (2) 観光客への効果的な情報発信			